

現代文における情報モラル教育の試み

情報モラル教育の必要性

- ① ネットをめぐるトラブルや事件の増加
SNSでの発信がきっかけで炎上や誹謗中傷などに巻き込まれる、さらには刑事事件に発展するケースも近年増加。
→情報機器の使用や、情報化社会での生活において、何か危険で、どのように危険を回避するかを知っておく必要がある。
- ② Society5.0の社会を迎えるにおいて必須の教養
危険回避のためだけではなく、今後の社会(いわゆるSociety5.0)で生活するための教養として、どのような事が社会で起こりうるか、その時人間はどう行動するのか等を知っておく必要がある。

国語(現代文)でする背景と意義

- ① 背景
(1)新学習指導要領の「現代の国語」「論理国語」で求められる「実社会につながる」要素のある授業が必要。
(2)モラル(道徳・倫理)の教育は文章を用いた教材を使うことが多く、国語教育との相性が良いと考えられる。
- ② 意義
(1)教科書で現代社会、特に現代の情報化社会について論じた文章の内容をより深く理解することができる。
(2)教科書と一般の新書の文章を読み合わせることを通じて、授業における「読み」と実社会における「読み」とをつなげることができ、加えて、実社会で必要な情報モラルとは何かを考える機会をつくることことができる。

方法および実践(特に工夫したポイント)

- ① 使用教材:文科省検定教科書×市販の新書
教科書:『擬似群衆の時代』(数研出版『改訂版 現代文B』より)
新書:『ルポ ネットリンチで人生を壊された人たち』(光文社新書)
→教科書の文章を文章(一)、新書の文章を文章(二)として、プリント教材にして使用。2つの文章を読み、文中で書かれている筆者の問題意識の共通点と相違点について考えさせる。
- ② 授業におけるICTの積極的な活用
(1) G-suiteの利用
Google Classroomを用いて、授業で使用する教材や、提出用の課題プリントなどをオンライン上で共有。
(2) YouTubeでの動画の活用
1.自作の解説動画:前年の研究(現代文の動画活用)の応用
→本文の講義前に予習用の解説動画を、復習用には授業で解説した内容をある程度コンパクトにした動画をそれぞれアップロード。
2. 外部の教養系動画
→新書の著者が「TEDカンファレンス」でプレゼンテーションをした時の動画を参考資料として紹介。
(3) 課題のオンライン提出の採用:Google Formを課題提出に使用。

YouTubeでの動画教材 上:予習用・下:復習用

Google Formでのオンライン課題

授業用プリント(B4で配布) Google Classroomでの教材共有

実践を終えて・・・～課題に対する生徒の回答からの考察～

ネット上だからといって態度を変えず、理性と判断力を持つことが大切だと思います。また、ネットに自分から何かを発信するときはその発信が全世界の人に見られているという意識を持つことが必要だと思います。

少なくとも普段からよく言われているように、軽率にネット上で発言をしないようにするということが必要である。ネット上に自分の興味があるものがあったとしても、すぐに強い衝動によってコメントなどしてしまうと、自分では何も思わずにした投稿でも、他人を不快にさせるリスクはあるということ、ネットを使う上で常に頭に入れておかなければならないと思う。

オンライン課題「文章(一)(二)から、自分はどうな考え方で、ネット社会を生き抜く必要があるか。思ったことを述べよ。」の回答より抜粋

私は人と繋がれるアプリを利用して、使い方を誤ればどんなトラブルにもなりうるし、その実例もニュースで見たり聞いたりしている。普通に使う分には便利で生活しやすくするものではあるが、そこには大きな危険が潜んでおり、ユーザー達はそれをきちんと認識できる力を身につけなければいけないと思う。私も使い方を考えてこれから過ごしたいし、もっと情報システムが向上して今より将来は便利になっていくと思うが、利便性の裏には危険がついてくるということを常に気をつけておきたい。

積極的に自分の意見を発信していくのはよいことだと思うが、プライバシーポリシーやモラルを理解し、内容をきちんと考えた上で投稿することが大切だと思う。また、何かを待っている群衆を変えることはできないので、投稿したものが不適切な内容であれば、炎上することは避けられない。だからこそ、一人一人が炎上の影響を受ける可能性があるということを意識しておく必要がある。

目にした情報に疑ってかかること。ネット社会の性質を考えると、情報は拡大解釈されにされている可能性も十分あり、迂闊に情報を発信してしまったり誤った意思を持つと、実社会に悪影響を及ぼしかねない。一歩踏みとどまり、物事を一度批判的に捉えられる冷静さを身につけたい

- ① 授業と課題の中で、ネット上の問題、トラブルは誰もが知らないうちに当事者になる可能性がある点について、言及できていた生徒が多かった。
- ② 炎上を初めとした様々なトラブルの例から「認識」や「踏みとどまり」がリスクを回避することであるという理解をしている生徒が何人もおり、その点で情報モラル教育としての効果があったと評価できる。